

ノテアル之レ程ノ卑怯ナ行為ガ又トアロウカ、然レナガラ
此ノ如キ
團法連來ノ卑怯未使ノ暗殺ハ行為モ團法ヲ普通道徳ヲ
超越シタル、且至高至大ノ見地カラレテ（當ニ）寛恕セラル、ハカリ
カ、却テ濁御大ニ賞揚禮讃セラル、場合ガナキニシモアラス
テアル、ガ、併シ、之レハ嚴禁サレタル最小限度ノ例外テナリ
テハナラス、然レテハ之ヲ濫用思用スルハ徒軍ヲ率ズトシキ
凡而（レテ）此例外モ法（自家）権力カ確立セズ團法（未ダ）カ整備セザル

野史未開時代ニ於テ始メテ^官退セラルベキテ^日入テ日
一國家ニ於テハ^能微塵ヲリトモ^ハ寛恕セラルベキヲナシ、理窟
ハ此辺ニ止メテ置イテ直ニ實際問題ニ入ロウ、和漢洋ノ歴
史ニ於テ暗殺ノ事例ハ可成多イガ、本邦ノ古イ所デハ中大
兄^皇皇子ガ藤原鐘足ト謀ツテ蘇我入鹿ヲ殿上ニ誅
戮シタコトモ、~~對~~對手側^一備チキ、乘シ、十分ノ準備ヲ整ヘテ
誅戮ト云フ^{ト云フ}
誅戮自由術^ナ直接行動ニ出テタト云フ点ヨリ言ヘバ

即チ暗殺ハナハルテアルガ之レハ入鹿ニ異國死ルコトガ發覺シタ
イタノデ、一刻モ猶豫スルコトガ出来ズ、非常手段ヲ取ラテアツテ
國法上、道徳上共ニ 喫緊ノ事 團圓ノ問題ニハナラヌ 果後大掛リ
 事件ト云ズレトイ 死シテ事柄ハ違フカモ 精々ト起ラ同ジウスルハ
 ガ羅馬ノ政徳議事堂ガ親友ブルターム以下ノ七首ニ斃死
 レタノモシーザーガ羅馬實業奪フ野心ヲ逞フスレタ
 トカ 為メテアツテ、形式ハ暗殺デアツテモ、刺客ノ動機ガ

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

羅馬ヲ救フト云フ純々臭ナル動機ニ基ツクテアルカラ、之ハ
其当時レテハ
一切ヲ超越シタルモトシテ是レ認サルベキテアルト思フ、ソレニモ
増シテ大仕掛ケナノハ赤穂四十七士ノ吉良上野介談義
事件デアル、^{暗殺事件}自今ノ定義カラ由言ハバ固ヨリ暗殺デアルガ、
主君ノ為ニ修羅ノ妄執ヲ容ラヌト云フ此一無雜ノ道義
心ト今一ツハ相手ノ上野介ガ名ウテノ奸物デアツタ為ノニ此
事件ハ元禄ノ義拳ヌハ快拳トシテ庶ク持テ囃サレ、氏士ノ

冷靜ニ仔細学者的、歴史家的ニ之ヲ検討シテ見ルニ相當、臆論ノ餘地ガナイ
テモアル身ヲ對ガ、吾々が一箇ノ事件トシテ引ツクルメテ此ノ事
件ニ對スルトキハ、忽チ吾々ノ心ノ底傳説的、深クニ深ク感セラレテ居ル
君臣ノ義ト云フ琴線、觸レテ、實ニ言フベカラサル悲壯ナル快
感ヲ覺ユルトテ、禁ル結ハヌテアル、之レガ即チ我國民ノ道德
ニ比類ナキ、比類ナキ誇テアルニテアル、併シ之レハ道德ニ觀察ニ止コル
ノデアツテ、四十七ノ行為ハ明カニ國法ヲ蹂躪シタル重大ナル
犯罪行為ニテアル、泉岳寺ニ於テ死ヲ賜フタ止マツタノハ、寧ろ幕

府ノ寛大ナル處置デアツタアロウ、

本能寺ノ変モ亦立派天塚殺行為心ナル、光秀ノ叛逆

ハドコカラ見テモ寛恕サルベキ餘地ハナイ、其母ガ「主君ヲ

殺シテ功名類不レ木ノ逆シト云言ツテ光秀ヲ面罵シテ事實カドウカ知ラヌ

ガ)コトハ世戰団乱世ノ時代ニ於テサへ日本ノ国民道德ノ大

本ヲ乱スベカラザル合喝破シタモノデアツテ、光秀ガ之ニ并

レテ「三代相恩ノ主君ニアラス」と言テツテ之見之レモ後人ノ作テ業知

トコロ何等ノ弁解ニナラヌ、

櫻田門外井伊大老ノ暗殺事件ハ當時天下ニ四品タリシ

テ日本ノ國運ヲ左右スベキ開國論ト鎖國論トノ衝ク身ノ

結果デアルカカラ國法上ノ犯罪タルコトハ勿論デアルガ道

徳上ノ批判ハ幾分宥恕スヘキ点ガナイテモナイ、ソレカラ

維新前後ニ於ケル大小ノ暗殺事件ハ數限リモナイ程多

ク、^{イガ、時ガ時トテ}取リ立テ、論スル程ノモノハナイ、^{明治時代ニツク}紀尾井坂ノ変、^{伊勢公}林

有禮ノ死、^{叔垣白、遭難}大隈外務大臣ノ奇禍、^{伊勢公}星亨、

原敬ノ死、^{伊勢公}其暗殺ノ動機ニ至テハ固ヨリ其軌ヲニセヌガ、

^等（^原）門外事件等ハ全ク別個事件トシテ此處ニ取扱フコトヲ差控ヘタイ



画シテ国体ノ変更ヲ試ミントスルモノ^{スラ} アツカ^ニテ^カル^ル之レハ^ニ實ニ
 天^天人^其共^ニ容^レテ^ル所^也
 戦^戦慄^慄ス^ベキ^不是^是行^行動^動テ^テア^アツ^ツテ^テ ^{國家ハ} ^王カ^カラ^ラズ^ズキ^キゲ^ゲテ
 之レガ防^防遏^遏鎮^鎮壓^壓ニ^ニ努^努カ^カメ^メナ^ナケ^ケレ^レバ^バナ^ナラ^ラズ^ズト^トハ^ハ勿^勿論^論テ^テアル^ル、^皇事^事
 ノ^ノ序^序テ^テニ^ニ特^特ニ^ニ言^言シ^シテ^テ要^要ク^ク次^次第^第テ^テアル^ル ^ガツ^ツト^ト調^調査^査シ^シタ^タ次^次
 米^米ノ^ノ事^事例^例ニ^ニ依^依レ^レバ^バ一^一八^八六^六五^五年^年カ^カラ^ラ一^一八^八九^九五^五年^年ニ^ニ至^至ル^ル約^約六^六十^十年^年間^間ニ^ニ刺^刺密^密
 ノ^ノ為^為ニ^ニ斃^斃レ^レタ^タ著^著名^名ノ^ノ人^人ガ^ガ三^三十^十五^五人^人、中^中ニ^ニ世^世界^界大^大戦^戦ヲ^ヲ勤^勤者^者ノ^ノ系^系因^因
 ト^トナ^ナツ^ツタ^タ墾^墾國^國皇^皇儲^儲及^及全^全妃^妃モ^モアル^ル、三^三十^十五^五人^人ノ^ノ中^中大^大統^統領^領ガ^ガ八^八人^人、總^總理^理
 大臣^臣ガ^ガ回^回ジ^ジク^ク八^八人^人テ^テアル^ル ^三十^十五^五人^人 ^暗殺^殺既^既遂^遂者^者ニ^ニテ^テアル^ル ^其 ^外暗^暗殺^殺未^未遂^遂者^者モ^モ随^随分^分多^多カ^カロ^ロウ

1895
 1895
 60

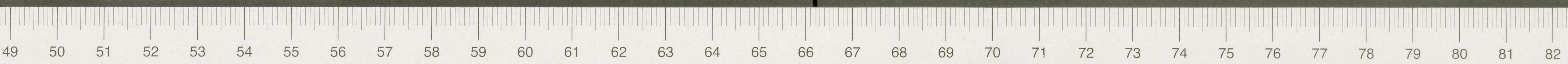
現ニ伊本利ムツソリノ如キハ数回狙撃サレタカキ幸運ニシテ
降丸命^ハ中^ニシ^テナカツタ^リ自今ハ是等^ノ刺客^ハ刺客^ノ
動機^ハ原因^ニ付^テハ^ハ調^ハベ^テ居^ラヌカラ^ハ別^ニ知^ル所^ハナイ^ノテ
アルガ、多^ク及^テ討^ノ党^ノ廻^ル者^ニ依^ル暗^殺ヲ^即チ^ハ取^リモ^直チ
政治的意義^ニ於^{ケル}非^常手^段カ^又ハ革命^ノ際^ノ
直接行動^ガ多^クイ^様デア^ツテ、後^者ハ暫^ク別^向題^ト
シテ前者^ハ國^法上^道徳^上滔^天罪^惡ト^断セ^ナケ^レバ^ナラ^ズ
又



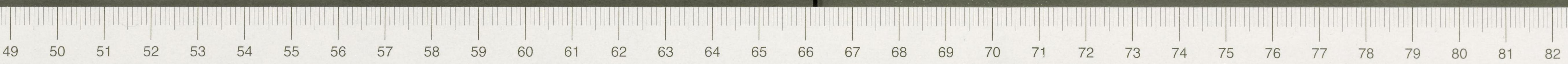
史記列傳ニ^ハ収^メラル支那ノ刺客ハ昔日沫ヨリ荆
軻^ニ至ル五人ニ過キ^ルナイガ豫讓ヲ除ク外^ハ評^ハ高^ニ値ス
ルモノハ一人モナイ、豫讓ハ心ヲ苦シメ身ヲ傷^ムル^ガ徹頭徹尾
主君ノ爲^ニ仇ヲ報セントシ^テ遂^ニ捕ヘ^レタルヲ^ハ捕ヘ^レテ^テ趙
襄子ノ訊問ニ答ヘ^テ辭ガ振ツテ居^ル、曰ク臣^ハ范中行氏ニ
事^ス范中行氏ハ衆人ヲ^モテ我ヲ^モテ遇ス、我故ニ衆人モテ
之^ニ報ス、智伯ニ至^ラハ國士モテ我ヲ^モテ遇ス、我故ニ國士モテ

手
報
紙

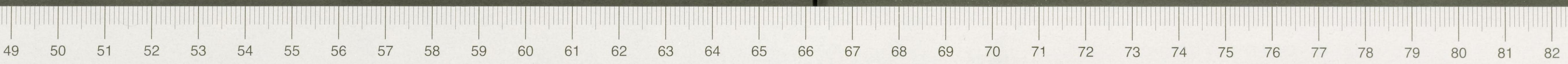
之ニ報ス、又其前ニ友人ニ告ゲテ辭ガアル、曰ク「既ニ已ニ
能ク委シテ人ニ任セシテ之ヲ殺スル事ム、是レニ心ヲ懷ビテ
以テ其君ニ事スル者ナリ、且ツ吾ノ為ス所ノ者ハ極メテ難キ
ノ也、然モ此ヲ為ス所以ノ者ハ將ニ以テ天下後世ノ人臣ト
為ツテニ心ヲ懷ビテ以テ其君ニ事スル者ヲ愧シメトスレ
バナリ」ト、君臣ノ義ニ関スル觀念ニ於テ我國民ノ道德
トヨク似テ居ルデハナク、荊軻ノ事トハヨク人口ニ噂矣シ
テ居ルケレバモ、其内容ニ至ツテハ聞ニツマラヌ事ナラズアル、



丁度幡随院長兵衛ノヨウナ沈滞家睦ノ依りしが
 相留ノ人ニ頼マレテイヤクナカ^{之ヲ引受ケテ}ラ身分ノ高イ人ヲ殺サ
 ントシテ場合ト思ヘバ宜シイ、^{信体骨の} 刺斬^のハえ来縁モユカリモ
 ナイ^{送々奉ニ封テ殿上ニ控テ} 燕ノ太子丹ト云フ人^ニ物^ヲ殺^シレ^テ死^スラ^シ辞^スル^{コト}ヲ^シル^ガ
 君^ヲ殺^シカ^{ント}シ^テ果^サズ^ク却^テ自^分が^殺サ^レタ^ト云^フニ^止
 マル^ハバ^テアル、^勿之^レハ^ケケ^トが^何故^アレ^程有^名ナ^活シ^ナツ^タ
 カト云^フバ^一方^ノ相^手が^当時^天下^ヲ統^一シ^タケ^テ唐^ル帝^ノ始^皇



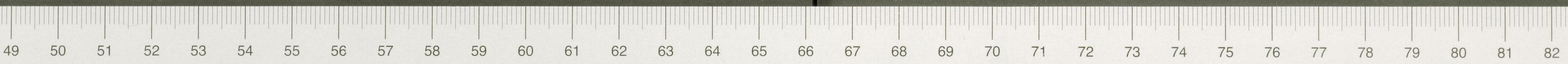
帝（荆斬ヲ）テアツタコト、人テ一ツニハ、荆斬ノ方ハ、高漸離ト云フ筑ノ
 名人ガ（途中ニ見送リテ来テ、変徴ノ聲ヲ為シテ、途中ニ見送リテ共ニ（唱和シテ
 感極マツテ、
 泣イテ見タリ、風蕭々ノ歌ヲ高唱シテ、悲歌慷慨シテ見
 タリ、（豪膽勇無双ト云ハレタリ）副使（素衣舞陽ガ殿上テ色変レ振恐レテ荆斬ニ
 笑ハレタリ、素衣（ハニキヲシテ）荆斬ノ七首ヲ免レ柱ヲ環ツテ（莊嚴ニ殿上テ於テ惶レ懼レテ）
 光景ヤ、環舞人ノ羅縠ノ單衣裂テ他ツレ、ハ尺ノ屏風起
 上テ越スレ鹿盧ノ劍負テ抜クレト云フヨウナ琴声ノ為ニ
 劇化サレ美化サレタリ（為ニ）テアツテ、其實蹟ハ、詢ニ詰ハラズモ



ノテアル、其他曹沫、専諸、身耳、時政ノ非中、ミエテハ
所謂市井ノ俠客、唯人ニ事泣キ付カレテ無^無挺^挺
之テ刺客ニツタ、丈々ノ話ニ過キナ^{（洵ニ他愛モオコトヲ取テ、言フ程ノト也）}
敗軍ノ耻ヲ繕フ為ニ、^{（君死シ）}末君タル魚目ノ莊ト有^{（男気ヲ出）}ノ桓公ト
ノ間^{（二）}盟約シタモノヲ破壊セシメテ桓公ヲ脅迫シタト云
フ曰、事實テアツテ一般暗殺者ノ家ニキ批難攻撃ノ上ニ実レ
一箇ニ身怯未練ノ批難攻撃ヲ免レナイテアロウ
暗殺ノ宣例、刺客ノ話ハコトク、深山ニアルデアロウカ

自尔ハ官務簡ク多ク知ル所がナク、候令知テ居テモ之レ
以上自録スル必要モアルマイト思フカラ、甚ダ纏玉ナリ
親^活中^活テハアルガ、茲ニ筆ヲ擱クツトニモル、事實^備連ツタ兵
批評ノ誤リガアレハ大方ノ是正ヲ望ム次第デアル、
就^案察

(昭和六年二月九日録)

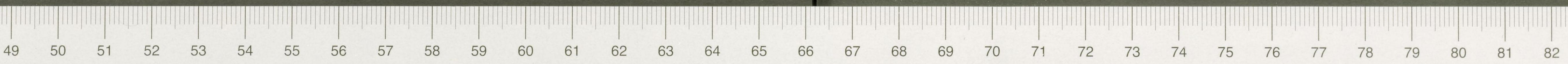


○議會近状

議會近状ハ何タル亡状デアルカ、何タル醜態デアルカ、言
フ直モナク議會ハ言論ノ府デアル、言論以外ニ何
物ヲモ容スコトハ出来ナイ、カルガ故ニ多数党ハ多数
党ヲシテ十分^其と言論ヲ尽カシメ、少数党ハ僅合数ニ於
テ^{備フ}破ル、トモ其言論ヲ議會ヲ避シテ^其國民ニ徹底
セシメ其言論ナル批判ニ訴ヘテ以テ總選舉ニ^{備フ}備フハベキ

院内勝敗ニ于係ナク
テアル國民ノ判断が差シテ多数ノ主張ニ左祖シ多
数党ノ主張ニ反対スルニハ、^{其結果ニ依テ}緊要トシテ多数党
トシテ多数トハ其地位ヲ顛倒シ、^{其結果ニ依テ}改推ノ所在^{自ラ}
動リ誤テアル、之レが即チ議會政治ノ^{要諦}運用テアリ政黨
政治ノ妙用テアル、然レシモ^{其結果ニ依テ}多数党が多数ヲ持ンテカ
数党ノ言論ヲ封シ、サ多数党が言論ヲ放棄シ暴力ヲ
以テ院内ノ秩序ヲ紊リ議事ノ進行ヲ妨ゲ甚キニ上テハ儀

場内^レ於テ乱闘ヲ演レ遊説^ノ見^ル言^ハ浦ノ村^ニテナケレバナラ
又所ノ帝國議會ヲシテ暴力ノ對ト化セシムルガ如キコトカ
アルナラバソレコソ憲法改^メノ破壞^ノテアリ議會政治ノ
蹂躪^ノテアツテ實^ニ由々シヤ大事ト云ハナケレバナラ^{二月三日}帝國
議會ノ近^ニ状^ハ之^ノ類スルモノガ^ナナカッタト云ヘルカドウカ^{議會}
院内ノ騷擾^ヲ自^ラ暴力ノ使用^ハ敵^ヲテ今^ニ田^ニ始^メマツタコト^テナ
ラ^ガ今^ニ田^ノ如ク甚^シキハナカッタ^テアル、^{議會}帝國議會^ノ見



レバ一のモ天下ノ名士一黨ノ紳士デアルノニ多數集合シテ団体
トシテ行動ス
行行動ヲサスルモトキツ^{此天下ノ名士一黨ノ紳士が海ニ想像ス本末チヤウナ}意外ナル行動ニ出ツル、群集心理ト云フ
言モホヲ以テコレハ決レテ之ヲ保護スルコトが出来ヌ、~~此~~如キ
行動ヲ見ル人が今言フ通り天下ノ名士ヲアホコソノ国民道
徳トシテ世道トシ~~キ~~於是乎國民ハ此ノ如キ議會ニ在リ
ニ對シテ始メ内ハ果^{果ラ}其次ニ果レル程度ヲ超エテ議會政
治ニ冷淡ニナリ、其次ニ議會^{政治}ヲ嫌惡シ、次ニ議會政治
ヲ不信セトスル傾向ヲ生スルニ至ルコトが^チテアロウカ、今日

△若夫國民が^内議令を在任ノ空氣が^内強^内憂スルニ至
ツタズ其結果^内如何アロヤカ、^内恐^内スルガ^内恐^内トシイニト
テ^内ル^内○

ノ^内トコロ^内デ^内國民^内議令^内政治^内冷淡^内ナリツ、^内ル程^内友
テ^内アツス^内幸^内ニシテ^内マ^内然^内始^内思^内、^内否^内認^内ト云フ^内トコロ^内ハ、^内到
ツテ^内居^内ラヌ^内ケレ^内モ、^内今^内、^内於^内テ^内改^内ムル^内トコロ^内ガ^内ナ^内ア^内ツ^内タ^内ナ^内ラ^内ズ^内ハ、^内由
國民^内ノ^内感^内情^内ハ^内何^内処^内ニ^内行^内ク^内カ、^内測^内リ^内難^内ク^内ト^内思^内フ^内ニ^内テ^内ル^内程^内友
今^内ノ^内世^内、^内概^内テ^内分^内析^内的^内ニ^内研^内究^内ス^内レ^内テ^内其^内責^内任^内ノ^内所^内在^内ヲ^内究^内ム^内ル^内ニ^内ト
ス^内ル^内モ^内ノ^内テ^内イ^内ガ^内際^内合^内的^内ニ^内道^内徳^内的^内ニ^内云^内フ^内、^内各^内々^内ノ^内方^内ニ^内モ^内有^内ル^内
任^内ガ^内アル^内テ^内ア^内ロ^内ウ、^内及^内社^内長^内ノ^内方^内ニ^内モ^内責^内任^内カ^内アル^内テ^内ア^内ロ^内ウ^内ト^内思^内フ

隊舎ヲリト云ハナクテハナラヌ、
其ノ山傾向ニシテ岸モ改メ善
サレ、コトナク以テ熱化場佳^{ニテモ}キル、
其ノ遂ニハ自治制ガ
ノ破壊ニ及ブテアウト云フコトヲ恐ル^{モノ}テアル
加之天下ノ名士國家選良ノ集合体タル帝回隊守ノ
醜態ハ世道人心ノ上ニ容易ナラズ、
其ノ影響ヲ及ボス
スバテアルコトヲ云フ、
其ノ醜態ヲ以テテドウレテ明ルク
政ガ出来ヨウカ、
自分共ノ理想ナル政治ヲシテ國民道德ノ



家言標準ヲシムルコトガ出来ヌヲウカソレハ全く思ヒモ寄ラ
ヌコトナルバカリテナク、國民道德ハ却テ改修ノ爲ニ
汚瀆セシ破壊セラルバカリテアル。

併シナガラ物心窮スレバ即チ通ズ、議會連日紛擾ニ付レ、
院内ニ於テモ相当ノ人物ハ起テハナスト尙面展開ノ決意ヲ
シテ也者モ動クナカツタ、院外ニ於テモ議會ノ醜態ニ憤慨シ
議會ノ淨化ヲ叫ブ声ガ嵐ノ如ク起リツタ、特ニ輿論ヲ

代表スル者新聞紙ハ期ヒズレテ筆ヲ擡ヘラ議會ノ友者ヲ
要求シ誠意ヲ以テ政治ノ淨化ヲ唱道シテ機運ハ速
シク二月ノ三日カラ五日間ニ涉ツテ外授ヲ續ケテ兼^{以テ}自
外ノ風俗ニ刺激セラレテ立憲法政治ノ將來ノ為ノ深ク
自ラ反省スル所アリ如^此勢ヲ見テ取リ
並ニ相謀ツテ懸案ノ解決^{ハ申ス及ハス更ニ}百尺竿頭一步ヲ進メテ積
極的ニ議會淨化ノ申合ヒヲ^{ナシ}確固タル決心ヲ以テ憲

政 論 評 スルコトヲ 要シナイ、大体ニ 於テ大ニ 度加ハスベキコト
 テアル、殘ル向 匙ハ 実行如何ト云フコトデアル、
 之ガ 十分ニ 實リセシ 福ヲ 轉シテ 福トナスベク 渾身
 ノ 努力ヲ 注セ 付ナケレバナラヌ、之ガ 國家ニ 對スル 吾々ノ 責任
 テア ラネバナラヌ、
 二月十日ハ 夜來ノ 雪 近年 稀ニ 見ルノ 大雪、凡テノ モイラ

高美ノ 爲ニ 努力カスルコトニ ナツタ 某具 其具体 條ハ 此處ニ
 三月十日ニ 到達シテ 結論テアル
 條ハ 此處ニ

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

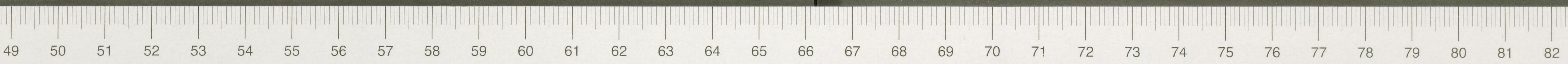


淨化シテ甘ネバ己マヌヨウナク雪デアツタ、丁度此日
ニ於テ希望有貴ノ間ニ一切ノ良案智法、果進ムテ
暴力ヲ排除、議會淨化ノ法が飛躍有貴ノ間成リ立ツ
シト云フコトハ一ツノ瑞祥ト云ヘヨク、ノミナラスおまじ十日ハ帝
國ノ建國ヲ記念スルトコロノ御紀元節ナル我九千方ノ
日本國民、二千五百九十七年前建國ノ當時ニ於ケル吾々ノ祖
先^{漢、漢、純真}ノ精神ニ顧ミテ^{改元奮甲努力}是れ共ニ淨化ノ目的ヲ達

成セナクレバナラヌ、否^確達成スルコトが出来ルト自分ハ
 確信スルモノテアル、失望^{無用}、悲觀ハ當ラヌ、
 只自分ハ^{民政}政^改党ノ首領トシテ、自責ノ念ニ駆レシカガモ、昨
 年十一月十四日遭難ニ引續イテ今尚病、床ニアリ、議會
 淨化ノ為メ何等ノ貢献ヲスルコトが出来ナイコトハ自ら省ミテ
 深く遺憾トスル所デアリ、^{我同志及全體}國民ニ對シテ慚愧ニ堪エナイ次
 弟^テアル、^{併シ}向^テ是^レカガモ、

(昭和六年二月十一日紀元節ニ録ス)

[Faint bleed-through handwriting from the reverse side of the page]



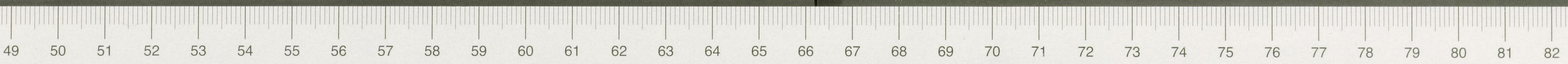
○ 衆議院問題トシテ一ツマシツテ確保

自分ノ衆議院問題ハ亦五十九議會ノ会期ノ進行ニ伴フテ貴
衆兩院ニ因リ世間一般ヲ通シテ次第々々ニ重大化スルニ
至ツタ、衆議院ニ於テハ、野黨ノ首腦部人々カラ、或ハ本會議
ニ於テ或ハ豫算委員会ニ於テ一再ナラズ自分ノ衆議院ヲ
催促サレタ、或ハ自分ノ衆議院ニテイコトヲ以テ自分ノ臣節
ヲ論セントスルモノスラアツタムテアル、貴族院ニ於テスラ一特ハ

各派一致ノ意見ヲマトナテ参院ノ大體ノ目取ヲ贊同
セントスル形勢スラアツタムデアル、遂ニ幣原臨時代理、
自今ノ承認ヲ得テ上テ二月十九日豫算案が貴族院
ニ上程セラレタ時、濱口首相ノ任通ハ至テ順調デアラカ
ラ、今後意外ノ変化ノナク限リハ三月上旬ハ参院出来ル
デアロウ、上ヨリ自認的ニ聲明スルニ至リ、此聲明ニ依テ

自
登院ヲ催促スル聲ハ一時鳴リヲ静メテ其後必行
ヲ静観スルニ至ッタヨウデアル

然レナガラハ自方ノ及登院向歟ハ兩院ニ於テ論議セラレ
ル前、新南條上ニ於テ囀セラルン^{ヨリ}前、自方自身ノ頭ノ
内^ニ疾クノ昔カラ重大化サレテ居タル^{遺難ニ思}自方ノ生命
ノ安全ガ保證セラレタナ月ノ末頃カラ自方ノ自覚症
状ヲ以テスレバ一月ノ二十日^{ニナツ}ニ於テモ休令明ケ^ハ頭カラ



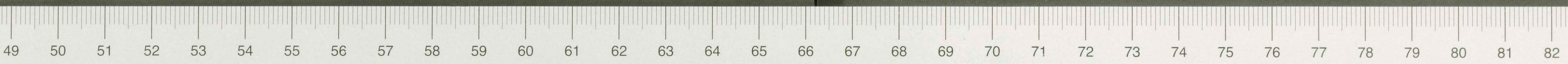
一、参院ハ到底不可能ナルハカリテナク、場合ニ依テハ
瘡口ノ治癒、体力ノ回復、参院ノ出来ん事ニハ安キカ
多クノ日子ヲ要スルデアロウトノ豫感ガアツクテアツク
其水切付ニ於テモ勿論今期中ノ参院可能存テハ寸
毫ノ懈怠ヲ有シテカツタ、併レソレハ自分ハ何トモ満足
スル所ナラキト思フ、^{蓋シテ}首相^ノ代漢ガ^{母意}アリ而シテ
氣ヲ揃テ議會ニ臨ム以上ハ、政府トシテハ、内閣トシテハ

法浄上、一政浄上 何等ノ義文ハナイ、然レモ、カ併シ
口自身トシテハ 政治的責任初念カ之ヲ許サナリ、ソユデ
二三ノ向考一振ラタ考へ振ラタ結ル、一先ビル^{自カ進退ヲ}考ヘ
ル 形ナカレバカラスト云フコトヲ決意シテ、決意ノ信
果ハ之ヲ実践スベキ方法ヲ考ヘ、状況ト^{ベキ}方法ト云フ
所^テ自カハ^ハ志^ガ信^ヲ毎^日静^ク考ヘ^ル要^ス 実^ニ然^ルモ、如何ト
モレヨウカナリ、唯^モ其^レ的^ノ状^況ト^ハ初^ニ状^トシ^テ 此^レの^意ハ、コウ

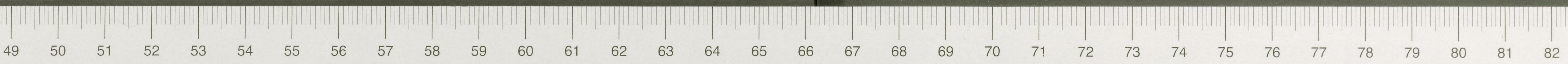


云フコトニ
 おハナイト信ス方法ヲ示シタ
 惟帯アルカス此帯ハ燃ん塔ニ考案セラレ討議セラレタ
 考案討議ノ結果、自分ノ法ニ思ハキ
 ノ情思ハ此レ之ガ實リ不可然トノ結論ニ達シタ
 自分ハ己ノ考案ノ際トシテ一時為保シ只管 積年ノ智ヲ
 フトシテアルガ、抑モ其時カラ或時具機ニサツテモ
 此院ハ出来ナクコウテアルベキ時ニ至リ其考案シヨウ

(Faint handwritten text, mostly illegible due to fading)



ト云フエトミレタ、
今即中ノ学院結否ハ各編同題ナシ、
今却後ノ勅令カ、出ツテ御裁理、款ヲ出シ、
テ備マシタ、款ヲ云ヨウナエトハ自分ハ出来ナイエトテアル、
或ル時機トハ即チ其心裁アル時機テナケレハナラヌ、之ヲ裁アル
時機トハカクモ其後院一出来得ルハ泉源院ニシテ控ケル
諸部大審院相向ト云フエトテナケレハナラヌ、其時機ニテ



ニ病状ノ強弱ニ中ニハ

△加之豫知シテナカッタ色々故障が
出テ来テ少カズニ体カノ
恢復ヲ妨ゲタリスル^{トカレ}
有^ル者ヤ最^モ後^ニ心死^ス一^ト道^ヲテ^ナイ[○]

述^レル^ニ如^クウ^ノニ^テ兩^院ヲ^始メ^テ新^付神^上ヤ^各方^面テ^向テ^進ム^ニ始^メタ^リ

自分^ノ体^カハ必^ズス^レモ豫^知如^クシ^テカク^ク恢復^シタイ[△]

併^シテ^ハ友^人ノ^心死^シテ^色々^ト言^フテ^笑レル^ル、中^ニハ^ハ感^心ノ^令

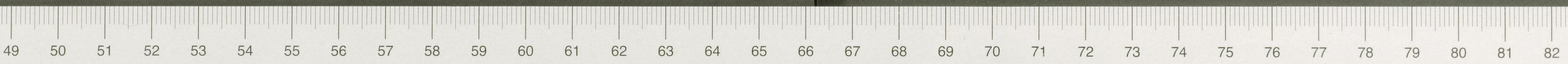
申^スル^ニ自^己ハ^其必^要カ^クテ^ハ世^評ニ^拘泥^スル^ニ加^ヘテ^自

重^シテ^ハ十^分ノ^体力^ノ恢^復ニ^努メ^ルベ^キナ^リト^サシ^テ進^メテ^出ル^ル

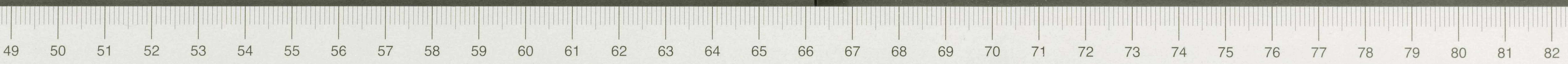
有^力者^モアル^ベシ^トモ、又^中ニ^ハ最^後院^ニ於^テ先^ニ死^スル^ニ至^ル院^目取^リ

智^力ノ^種々^トテ^アワ^タト^スル^人サ^ハ見^ルベ^シ、然^レモ^ハコト

カ^クテ、ア^ノ智^力ニ^拘束^セラ^レテ^必ズ^モ言^フ事^ヲ行^フス^ルベ^キ

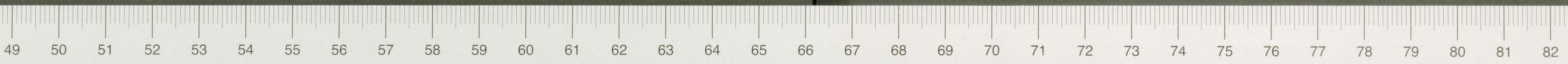


分ハ自分ノステーツマンツゴ
 ケレハナラナイテアル、若シ夫レノステーツマンツゴ
 係ト健康トソレカラ多ク方面ノ好マシカザルハ
 生ハナイト云フコトガ~~固~~両立スルコトガ出来ルナラハソハ
 實ニ~~望~~ハノ幸ハテアル、今日ハ二月ノ十八日デ三月ノ十日迄
 所僅ニ六七日ニ過キナリ其間目下自分ノ健康ヲ~~固~~悩マ
 ンテ居ル所ノ色々ノ障碍ガ大体取り除カレテ~~固~~醫院ニ移アリ



不都合モナク又一旦参院にテ其之を仰せしルト云フ事トモナク
議令申建儀出立スルコトが出来ルヤ不^レ可^レハクハ^レ以後
其^レ向^レノ便宜ガ之ヲ決定スルニテアル^{何レニモ}自分ノ決意ハ十一月以來
已レ出来テ居ルハナク

(昭和六年三月十日録)



293

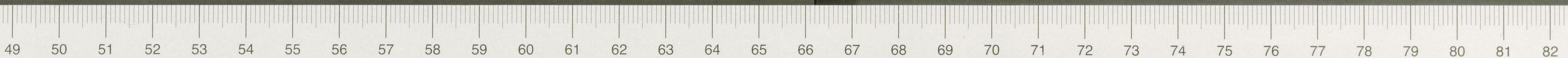
国立国会図書館

随感随録 浜口雄幸関係文書5

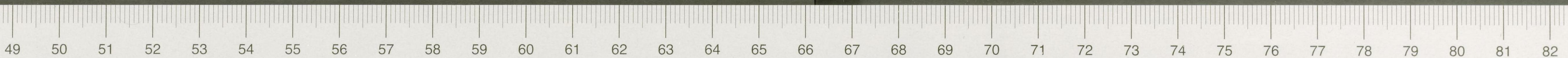


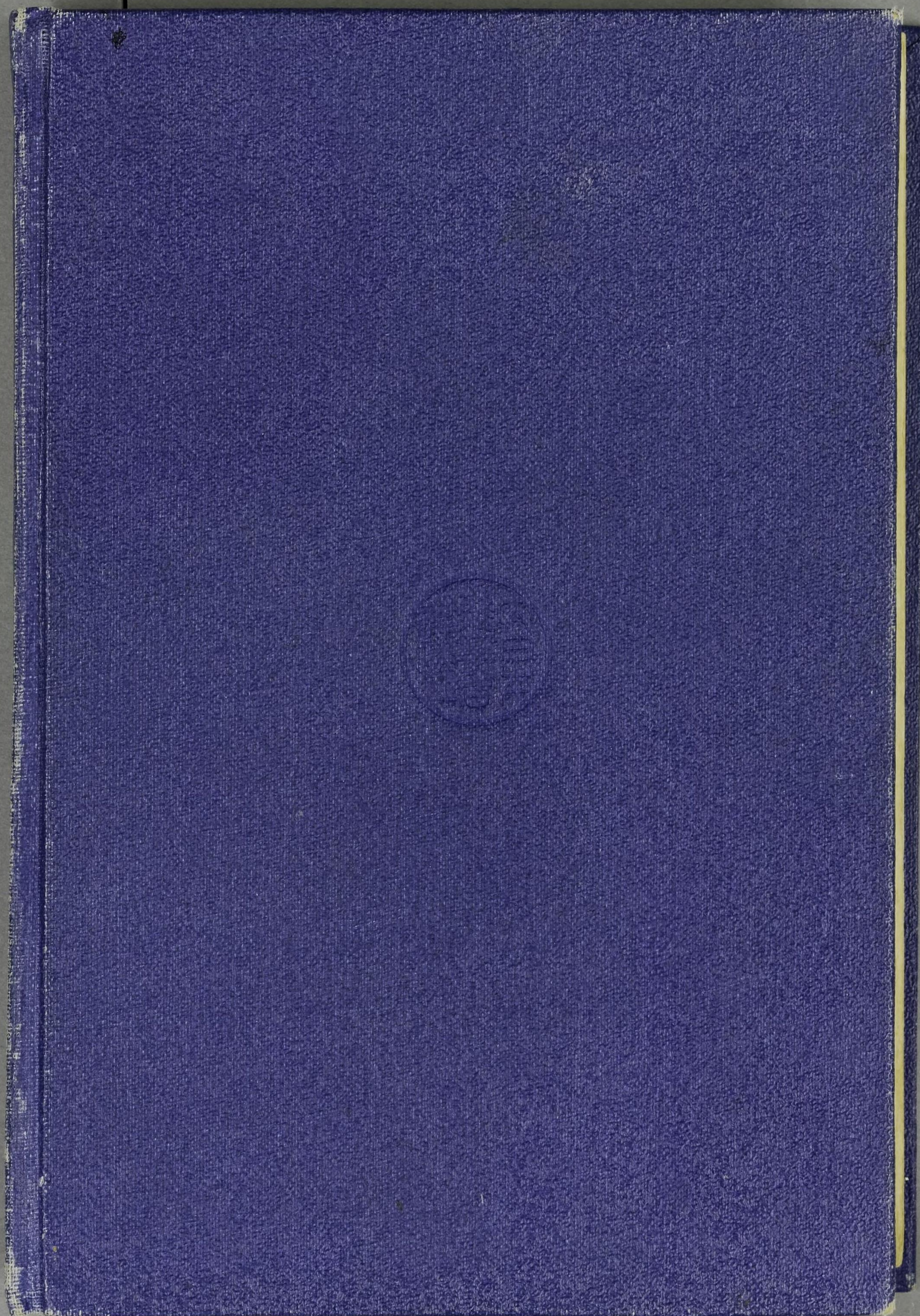
国立国会図書館

随感随録 浜口雄幸関係文書5



| | |
|----------------------------|-------|
| 作品No 61 | 寄贈・返却 |
| 作品名 随感随録の原稿 (内容) 浜口雄幸 作 | |
| 所有者 出品者 名 浜口家 | |





国立国会図書館

随感随録 浜口雄幸関係文書5

